

令和 5 年度
福島県 集落自主活動に係る伴走支援事業

田村市船引町瀬川地区業務実施報告書

獨協大学セガワ応援隊

[目次]	ページ
1. はじめに.....	1
2. 田村市船引町瀬川地区の概要と課題設定	2
2.1. 田村市船引町瀬川地区の概要	
2.2. 瀬川地区の人口減少と少子高齢化	
2.3. 瀬川地区の問題点と取り組むべき課題	
3. 今年度の活動実績	4
3.1. ミーティングの開催	
3.2. 現地活動	
3.2.1. 農家の視察	
3.2.2. 廃校になった旧瀬川小学校屋内の視察	
3.2.3. そば打ちの見学	
3.2.4. 瀬川地区の農産物を利用した商品の開発・レシピの提案	
3.2.5. 旧瀬川小学校の利活用に向けたアンケート調査の実施	
3.2.6. 新そば収穫祭&軽トラマルシェ開催への協力とお菓子の販売	
3.3. 草加ふささらまつりでの PR 活動	
3.4. 獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2023～Winter～”における福島県復興支援 物産展の開催	
3.5. 「大学生と集落の協働による地域活性化事業」活動報告会	
4. 次年度の活動計画	19
4.1. 2022 年度末に廃校となった旧瀬川小学校の利活用	
4.2. 新そば収穫祭&軽トラマルシェ開催のサポート	
4.3. 学内で開催する福島県復興支援物産展の継続	
5. 終わりに.....	20

1. はじめに

獨協大学地域活性化プロジェクト米山チームは2017年度に「大学生の力を活用した集落復興支援事業」に採択されて福島県田村市船引町瀬川地区において活動を開始した。「小さな体験活動を通し、瀬川地区の維持及び活性化に資する」という理念の元、耕作放棄地を利用したそばの作付けなどの活動を行っている「やってみっ会」(会長新田昭悟氏)を中心として、「結いの会」「瀬川地域づくり協議会」と協働して、瀬川地区の集落活性事業に取り組むことになった。2018年は「第1回 新そば収穫祭&軽トラマルシェ」の企画運営を行った。3年目の2019年度は獨協大学セガワ応援隊として「大学生等による地域創生推進事業」に採択されたが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、申請を見送った。4年目の2021年度は「大学生等による地域創生推進事業」が「大学生と集落の協働による地域活性化事業」に衣替えされたが、4年目も新型コロナウイルス感染拡大の影響で、現地調査は行うことができなかった。5年目の2022年度は2019年度ぶりに現地調査を行ったが、1度しか現地活動ができなかった。そして、6年目の2023年度は、獨協大学セガワ応援隊として「集落自主活動に係る伴走支援事業」に携わる最後の年の活動となった。

田村市船引町瀬川地区を担当する獨協大学セガワ応援隊は、原田奈穂(代表:国際環境経済学科2年)、志賀陽(副代表:経済学科4年)、黒木健登(会計:法律学科2年)、内山輝(英語学科4年)、石川育美(フランス語学科4年)、松井海紀(フランス語学科4年)、山上真代(法律学科2年)、齊藤啓翔(法律学科2年)、中西佳奈絵(総合政策学科1年)、田波萌々香(国際環境経済学科卒)の6学科9名と卒業生1名からなるチームである。

今年度はオンラインでのミーティングに加え、2度の現地活動を行った。1度目の現地活動を行った9月20日には、私たちセガワ応援隊の学生とやってみっ会の方々と、次年度に向けた福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)申請について意見交換を行った。また、提供してもらった瀬川地区の農産物(エゴマパウダー、エゴマ油、そば粉、小麦粉)を使って、製作した5つの商品のレシピを地域の方々に紹介した。2度目の現地活動では、11月18日に前年度は行っていなかったそば打ちや出汁の準備を行い、19日に「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」の開催を手伝った。セガワ応援隊としては、旧瀬川小学校の利活用に向けたアンケート調査とセガワ応援隊が商品開発したお菓子とコーヒーを販売した。

さらに今年度は新たに「草加ふささらまつり」に参加、出店した。セガワ応援隊が開発した商品のうち、2つの商品である揚げそばの-snackとエゴマのシュケットを10月の「草加ふささらまつり」と、11月の新そば収穫祭&軽トラマルシェにて販売した。

また、12月4~8日に行われた“Earth Week Dokkyo 2023~Winter~”では、「福島復興支援物産展」を開催し、瀬川地区のPRだけでなくセガワ応援隊としての活動の認知度向上を目指して、地区の物産品を販売し瀬川地区に売上を還元することができた。

本報告書において、獨協大学セガワ応援隊の田村市船引町瀬川地区における今年度の活動実績について報告する。第2節では、田村市船引町瀬川地区の概要と課題設定を確認した上で、第3節で今年度の活動実績を報告するとともに振り返って点検評価を行う。そして、

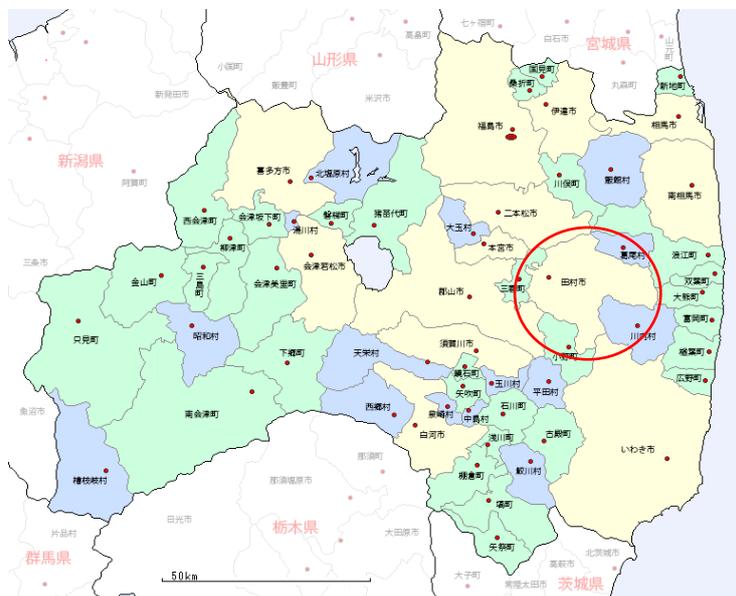
第4節で次年度の活動計画案についてまとめる。

2. 田村市船引町瀬川地区の概要と課題設定

2.1. 田村市船引町瀬川地区の概要

福島県田村市の位置は図表1の通りである。田村市船引町は田村市の北西端に位置している。

図表1. 福島県田村市の位置



[出典]47 都道府県の地図「福島県の地図」(<https://uub.jp/47/fukushima/map.html>)を参照。

船引町には、船引地区、文珠地区、美山地区、瀬川地区、移地区、芦沢地区、七郷地区、要田地区の8地区がある。船引町瀬川地区は、図表2の通り、田村市の北西部、田村市船引町の北部に位置し、船引町の中心部より北東へ7kmほど離れ、二本松市と隣接している。面積は、約17.73km²、標高400m前後の丘陵地である。また、おおむね東側には移ヶ岳(標高994.5m)が位置している。瀬川地区は阿武隈高地に位置し、山がちな地形である。瀬川地区は、門鹿^{かどしか}、大倉^{にいたて}、新館、石沢の4つの行政区で構成されている。

丘陵地の大部分が森林であり、低地の部分については、田畑の耕作地である。瀬川地区の中央を移川(1級河川長さ49.5km)がおおむね東西方向に流れ、これに紫川が大倉で合流し、阿武隈川へと注がれている。瀬川とは、この地方の地形から付けられた名前であり、移川、紫川の美しい流れが山間部のわずかに開けた平坦地を流れるさまを表しているという。

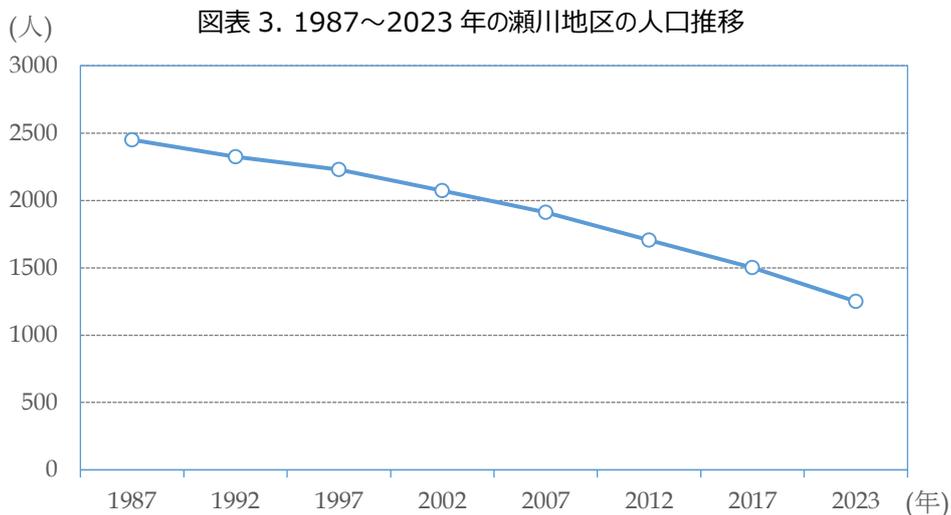
図表 2. 田村市船引町における瀬川地区の位置



[出典]国土交通省国土地理院「地理院地図」(<https://www.gsi.go.jp/>)より作成。

2.2. 瀬川地区の人口減少と少子高齢化

図表 3 には 1987 年以降の瀬川地区の人口推移を掲載しているが、瀬川地区の人口は 1987(昭和 62)年の 2,450 人から 2007(平成 19)年には 2,000 人を切り、2017(平成 31)年には 1,501 人となり、2022 年には 1,270 人、2023 年には 1,250 人となっている。2023 年には 1987 年のほぼ半分の人口となっており、人口減少に歯止めがかからない状態である。



[出典]「瀬川の人口及び世帯数の推移」『住民基本台帳』より作成。瀬川出張所調べ。

2.3. 瀬川地区の問題点と取り組むべき課題

私たちの先輩の米山チームが 2017 年度に現地調査を実施し、瀬川地区の抱える問題を次のように集約した。設定した課題は以下の通りである。

■瀬川地区の抱える問題

- (1)地域コミュニティが崩壊しつつある。地域住民の交流の場がない。
- (2)瀬川地区に働き口、収入源がない。
- (3)外部の人が瀬川地区を訪れる理由がない。
- (4)空き家、耕作放棄地が増加している。

このような問題の整理から取り組むべき課題を以下のように抽出している。

■取り組むべき課題

- (1)地域住民の交流する場を増やし、日常生活に対するサポートを提供する。
- (2)収入を発生させる仕組みをつくる。
- (3)外部から注目してもらい、立ち寄ってもらい、交流人口を増す。

3. 今年度の活動実績

2023年度は現地活動に向けてオンラインでのミーティングを全4回行った。また、現地活動を2度行い、新そば収穫祭&軽トラマルシェの手伝いや、次年度の福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)への申請企画案について意見交換を行った。さらに例年同様、「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2023~Winter~”」において福島復興支援物産展を開催した。さらに、やってみっ会の皆さんに瀬川地区の農産物(エゴマパウダー、エゴマ油、そば粉、小麦粉)を提供していただき、商品開発を行い、「草加ふささらまつり」、現地活動のときに商品販売を行った。

3.1. ミーティングの開催

今年度も活動未経験のメンバーが多かったため、瀬川地区のやってみっ会のメンバーとコミュニケーションをとり、今までの活動の振り返りを行った。現地調査時には対面でやってみっ会の方々とは次年度の地域創生総合支援事業(サポート事業)の申請に向けた意見交換を行った。

図表 4. 2023年度活動報告:ミーティング記録

	日付	内容	参加者
第1回	2023/5/30 オンライン	今年度キックオフミーティング 今年度の活動計画について打ち合わせ	学生：1名 教員：4名
第2回	2023/7/3 オンライン	自己紹介 学生からの農産物を使った商品開発の提案	学生：4名
第3回	2023/8/9 オンライン	現地入りに向けた話し合い 商品化についての詳細な話し合い	学生：3名 教員：1名
第4回	2023/9/13 オンライン	現地調査に向けた話し合い	学生：3名
第5回	2023/9/20 対面	現地にて開発した商品を提案 来年度の活動、11月の現地入りについての話し合い	学生：5名

第6回	2023/11/9 オンライン	現地調査に向けた日程の調整	学生：2名
-----	--------------------	---------------	-------

今年度は8月から始動し、9月、11月の現地調査に向けて瀬川地区の方々とミーティングを重ねた。アンケート調査や新そば収穫祭&軽トラマルシェの手伝いなど、予定通り進められたことは評価できる。また、学生から提案した商品の開発も行うことができた。これらを実施できたのは、やってみっ会の皆さんの協力があったことである。反省点としてZoomでのミーティングの参加者にばらつきが生じていることがあり、メンバー内が共通の認識で活動ができているか、コミュニケーションが不足していないかの不安感があった。Zoomでのミーティングもセガワ応援隊のメンバーはオフラインで集合し、地区の皆さんとオンラインでミーティングをするべきであった。

3.2. 現地活動

今年度は、9月19日(火)・20日(水)、11月18日(土)・19日(日)の2回にわたり現地活動を実施した。9月19日(火)には、市の職員の方に案内していただき、旧瀬川小学校屋内の視察を行った。その後はやってみっ会の方の案内で、門鹿の葉タバコ作業場、聖石キャンプ場、大倉神社、ミツバチ養蜂場、アピオス畑、エゴマ畑・大豆畑、新館のそば畑、薪の里ながとろの見学をした。9月20日(水)には、石沢のそば畑、熊野神社、自然塾、そば打ち見学をしたり、セガワ応援隊が開発中の商品を地域の方々に向けて紹介した。さらに、11月12日に行われる軽トラマルシェの打ち合わせと、福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)申請に向けた打ち合わせをした。

11月18日(土)には、翌日の会場等の準備作業(調理室、喫食室、軽トラマルシェ会場、看板旗の配置)をした。また、そば打ちや出汁の準備、アンケート調査やセガワ応援隊で開発したお菓子作りをした。11月19日(日)は、新そば収穫祭&軽トラマルシェの手伝いと、アンケート調査、セガワ応援隊で開発したお菓子の販売を行った。

図表 5. 9月の現地視察行程表

時程	行程
9月19日(火)	
8:33～9:31	東北新幹線 やまびこ 127号(仙台行) 大宮駅発～郡山駅着
9:41～10:10	JR 磐越東線(小野新町行) 郡山駅発～船引駅着
10:15～10:30	移動(対応：やってみっ会)
10:30～12:00	旧瀬川小学校の校舎内の視察(市の職員の方対応)
12:00～13:00	昼食 セがわ食堂
13:05～13:30	ミーティング
13:30～14:00	門鹿葉たばこ作業場
14:00～14:30	聖石キャンプ場

14:30～14:50	大倉神社
14:50～15:20	ミツバチ養蜂場・アピオス畑
15:20～15:50	エゴマ畑・大豆畑
15:50～16:10	休憩
16:10～16:20	新館のそば畑
16:20～16:50	薪の里ながとろ
16:50～17:30	次の日の会場準備
17:30～18:00	出張所発
～18:10	瀬川出張所から農家民宿みちくさまで
18:10	農家民宿みちくさチェックイン
19:00	夕食
9月20日(水)	
7:00～	朝食
8:00	農家民宿みちくさチェックアウト 移動(対応:やってみっ会)
8:30～8:50	石沢のそば畑
8:50～9:20	熊野神社
9:20～10:00	自然塾
10:00～12:00	そば打ち見学
12:00～13:00	昼食(そば実食)
13:30～13:30	後片付け
13:30～14:30	セガワ応援隊の開発中の商品の紹介
14:30～16:20	11月に開催される新そば収穫祭&軽トラマルシェ、福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)申請に向けた打ち合わせ
16:20～17:30	会場の片付け及び帰宅準備
17:30	瀬川出張所出発
17:50	船引駅着
18:11～18:38	JR 磐越東線(郡山行) 船引駅発～郡山駅着
19:00～20:18	東北新幹線 やまびこ 218号(東京行) 郡山駅発～大宮駅(東京駅)着

図表 6. 11月の現地視察行程表

時程	行程
11月18日(土)	
8:33～9:31	東北新幹線 やまびこ 127号(仙台行) 大宮駅発～郡山駅着
9:41～10:10	JR 磐越東線(小野新町行) 郡山駅発～船引駅着
10:15～10:30	移動(対応:やってみっ会)
10:30～11:00	買い出し
11:00～12:00	会場等の準備作業 (調理室、喫食室、軽トラマルシェ会場、看板旗の配置)
12:00～13:00	昼食
13:00～17:00	作業 そば打ち、だしの準備、 セガワ応援隊のアンケート調査、お菓子作り等

17:30～ 18:30～	移動 老人憩の家 夕食
11月19日(日) 7:00～ 8:00	朝食 老人憩いの湯 針湯荘チェックアウト 移動 (対応: やってみっ会)
8:30～9:00	瀬川出張所到着準備開始
9:00	新そば収穫祭&軽トラマルシェ開式
9:00～14:00	新そば収穫祭&軽トラマルシェの開催
14:00～15:00	セガワ応援隊: アンケート調査とお菓子配布
15:30	撤収作業
16:30	閉会式
16:50	瀬川出張所出発
17:00	船引駅到着
17:10～17:36	JR 磐越東線(郡山行)船引駅発～郡山駅着
17:49～18:28	JR 東北本線(新白河行)郡山発～新白河着
18:32～18:55	JR 東北本線(黒磯行)新白河発～黒磯着
19:00～19:51	JR 宇都宮線(宇都宮行)黒磯発～宇都宮着
19:59～21:16	JR 宇都宮線(熱海行)宇都宮発～大宮着

3.2.1. 農家の視察

瀬川地区特産品の田畑を見学した。珍しい葉タバコ農家、そば畑、アピオス畑、エゴマ畑、日本ミツバチの養蜂場を見学し、農家の方より詳しい説明を受けた。

写真 1. 乾燥中のタバコの葉



写真 2. やってみっ会のそば畑



葉タバコはかつて瀬川地区の収益を担う特産の作物であったが、近年は喫煙人口が減少しており、担い手もおらず、縮小しているとのことであった。タバコは成長すると2mほど

の大きさになり、16枚ほどの葉が付く。これを収穫し、暗い場所で乾燥させ、広げる。非常に手間のかかる作業である。またタバコは暑い日が続くと葉が黄色く変色してしまうので、地球温暖化によっても、悪影響を受けているそうである。そばの畑は、やってみっ会のメンバーで遊休農地を使い、そばを作付けしているとのことであった。このそばを打ち、販売した収益はやってみっ会の活動資金になっている。

3.2.2 廃校になった旧瀬川小学校の屋内視察

9月19日(火)には、廃校となった旧田村市立瀬川小学校の校舎の中を視察し、どのような利活用方法が考えられるか、調査を行った。校舎はすぐにでも活用ができそうなほどきれいな状態であった。2階建ての校舎には、図書館、音楽室、調理室などもあり、イベントを行うにあたって十分な施設であることがわかった。現在、管理は田村市が行っているため、住民がすぐにこの校舎を使用することは難しいが、住民の意見を取りまとめ、適切な利活用方法を模索することになった。

写真3. 旧瀬川小学校の調理室



写真4. 旧瀬川小学校の図書室



3.2.3 そば打ちの見学

瀬川地区は「会津のかおり」というそば粉が特産品として有名である。やってみっ会のメンバーには、そば打ちの職人として段位を持つ方がいる。その方々に、実際にそば打ちを実施していただき、見学させていただいた。そば打ちの職人の手際の良さや繊細さに感動した。生地を丁寧に延ばし、細かい手作業でそばを切っていく様子は芸術のように美しく、技術と経験が必要な作業だと感じた。その後、打ったそばを食べさせていただいた。弾力、風味、味全てにおいて最高の品であった。このそばの魅力をしっかり発信していきたいと思う。

写真 5. そば打ちの様子①



写真 6. そば打ちの様子②



3.2.4 瀬川地区の農産物を利用した商品の開発・レシピの提案

今年度の成果の1つが、瀬川の農産物を使用した商品の開発、レシピの提案である。わたしたちは、つぎのような目的で、地区の農産物を使った商品開発を行うことにした。やってみっ会から、そば粉、中力粉、強力粉、エゴマ油、エゴマパウダー、はちみつを提供していただいた。商品の試作は獨協大学のコミュニティスクエアを利用し、9月15日に実施した。写真7～11に掲載したそばピザ、エゴマのシュケット、揚げそばのスナック、そばの Pasta、エゴマのカップケーキの5品を試作して、学生同士で評価しあった。

■目的

- ・瀬川地区の農産物を使用し、地域の農作物の価値を高める。
- ・イベントで販売することで、瀬川地区の魅力が伝わりやすくする。
- ・販売によって収益を上げることで、地域の活動資金源し、活動を促進する。

9月20日の現地活動の際に、資料をパワーポイントで作成し印刷したものを用いて、地区の皆さんに開発した商品のレシピを紹介した。地区の方々から、作り方についての疑問点や質問を受け説明して、活用方法を検討していただいた。その結果、11月の新そば収穫祭&軽トラマルシェで販売をすることが決まった。販売に至ったのは、エゴマのシュケット、揚げそばのスナックの2つの商品であり、そのレシピは図表7、8の通りである。

写真 6. 商品紹介の様子



図表 7. エゴマのシュケットの材料とレシピ

クッキー生地材料	分量	クッキー生地のレシピ
無塩バター	50g	1 ボウルに常温に戻したバターを入れ、マヨネーズ状になるまで混ぜる。
薄力粉	30g	2 エゴマパウダー、薄力粉を振るい、グラニュー糖と一緒に1に混ぜる。
エゴマパウダー	30g	3 ゴムベラでさっくり混ぜ、だまがなくなったら一つにまとめ、冷蔵庫で休ませる。
グラニュー糖	55g	

シュー生地材料	分量	シュー生地のレシピ
水	100cc	1 サラダ油、水、グラニュー糖、塩を鍋に入れ、沸騰させる。
グラニュー糖	小さじ1	2 沸騰したら、火から下ろし、1に振った中力粉を入れ、だまにならないように木べらで混ぜる。
塩	小さじ1/4	3 弱火で熱しながら、生地に透明感が出たら、火から下す。
サラダ油	50g	4 溶いた卵を三回に分けて混ぜ合わせる。もったりと木べらの上に乗るようになるのが目安。
中力粉	60g	5 生地を縛り口にいれ、絞り出す。指に水を付け、表面を整える。
全卵	3個	6 クッキー生地を乗せ、オーブンで180℃、30分焼く。20分間はドアを開けない。
ザラメ	適量	

図表 8. 揚げそばの材料

材料	分量	レシピ
そば粉	適宜	1 そばを打つ(二割そば)
中力粉	適宜	2 適当な大きさに切ってゆでる。
水	適宜	3 180℃の油で揚げる
調味料	適宜	4 味をつける
塩	適宜	
サワークリームパウダー等	適宜	

写真 7. そばピザ



写真 8. エゴマのシュケット



写真 9. 揚げそばのサク



写真 10. そばパスタ



写真 11. エゴマのカップケーキ



■反省点、改善策

- ・販売したシュケットは数量を作ることは容易だが、手間がかかった。
- ・揚げそばのスナックは高齢のお客様には硬いようであったので、食感を変えてみる必要があるかもしれない。

■成果・住民の皆さんの反応

- ・5品目のレシピを開発し、そのうちの2品（揚げそばのスナック、エゴマのシュケット）を商品として販売することができ、草加ふささら祭りでは約9000円、瀬川地区の新そば収穫祭&軽トラマルシェでは7700円の収益を計上した。
- ・住民の方には、好評していただけました。来年も商品の開発をしてほしいと依頼をいただいた。

今回制作したレシピを活用して今後の活動を展開していけるようにしていきたい。また地元のお菓子屋さんコラボした商品を販売することも目標の1つである。

3.2.5 小学校の利活用に向けたアンケート調査の実施

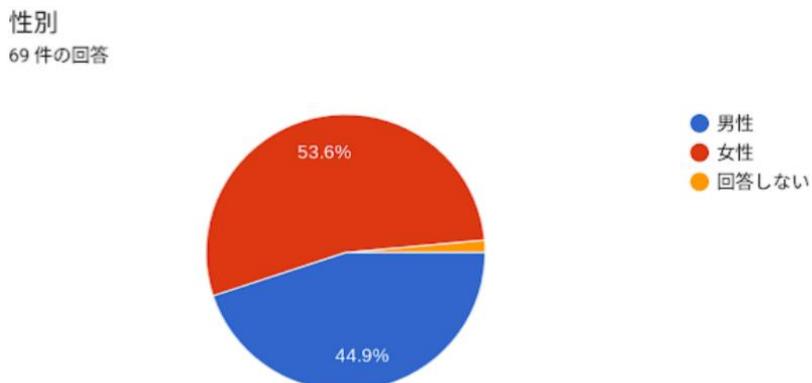
新そば収穫祭&軽トラマルシェの来場者を対象に、小学校の利活用に関するアンケートを行った。質問項目は、性別や年齢など、来場者について、地域の現状について、この地域に臨むもの、必要と思われるものについてである。気軽に答えやすいように選択式にて実施した。

■集計結果

およそ70の方に回答していただくことができた。60代後半の方が多いということやほとんどの方がよりよい地域を望んでいることがわかった。

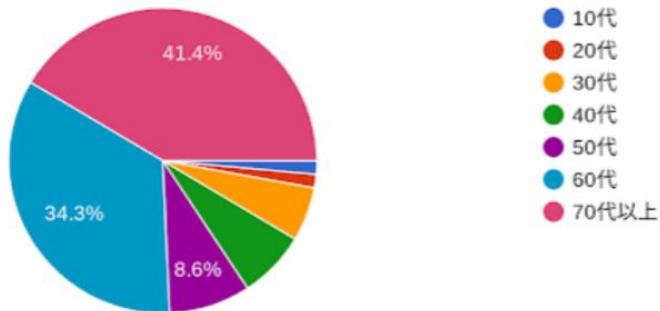
具体的に必要と思われているのは、1番に直売所、2番目にカフェ、3番目にイベント施設という結果になった。作物を販売できる場やさまざまな人が集まれる場所、憩いの場というものを地域の人々が望んでいるのだということがわかった。

図表9. 性別についての集計結果



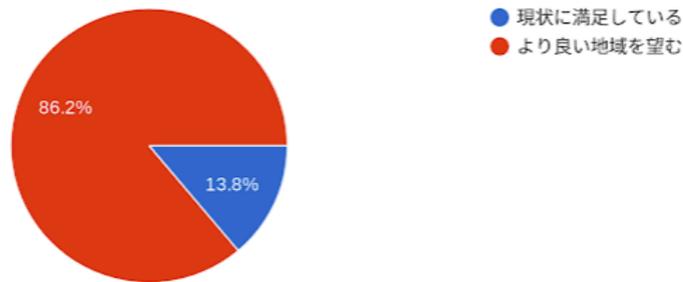
図表 10. 年齢についての集計結果

年齢
70件の回答



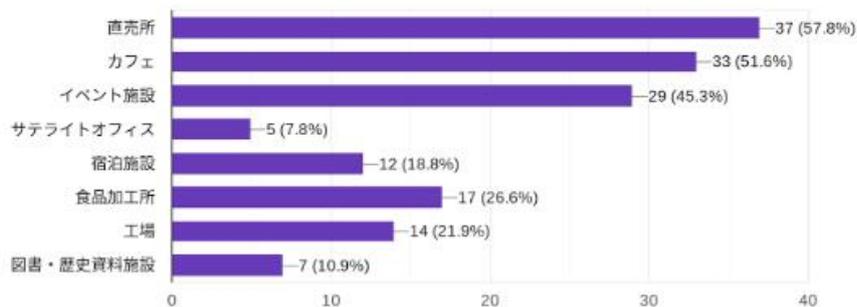
図表 11. 地域の現状についての集計結果

この地域の現状をどのように思われますか？
65件の回答



図表 12. 地域に望むものについての集計結果

この地域に望む、必要と思われるもののお考えをお聞かせください。
64件の回答



3.2.6 新そば収穫祭&軽トラマルシェ開催への協力とお菓子の販売

11月の現地活動では、新そば収穫祭&軽トラマルシェ開催に協力した。11月18日(土)は、調理室、喫食室、軽トラマルシェ会場、看板旗の配置などの会場等の準備作業や食事の準備を主に行った。午前中は、お菓子作りに必要なものをやってみっ会の方々に協力してもらいながら買い出しに行ったり、会場の設営を行ったりした。昼食には打ったばかりの蕎麦に冷

ただしをかけていただいた。午後には、セガワ応援隊で考案したお菓子であるエゴマのシュケットと揚げそばの零食の製作を開始した。時間ギリギリまでかかったが、やってみっ会や地域の方々のお力添えをいただいたおかげで、準備を完璧にすることができた。

11月19日(日)には新そば収穫祭&軽トラマルシェを開催し、その一角で商品開発したエゴマのシュケット、揚げそばの零食やコーヒーの販売、アンケートの実施を行った。商品開発のお菓子は好評であった。風が強く、冷え込んだ日であったが、多くの方に来場していただいた。イベント終了後、学生とやってみっかいの方々で今後に向けて、打ち合わせを行った。

写真 12.マルシェの様子



写真 13.作業の様子



図表 13. 新そば収穫祭&軽トラマルシェのポスター・チラシ



3.3. 草加ふささらまつりでの PR 活動

10月22日(日)に行われた草加ふささらまつりでは、草加市での瀬川地区の PR 活動を目

的として、開発した商品を販売した。ここでは、えごまのシュケットと揚げそばのスナックを販売した。

■目的

- ・草加市において瀬川地区をPRするために参加した。
- ・瀬川地区の特産品を使った商品を開発した。その実証実験として地域のお祭りにおいて販売という形で行った。

■結果

- ・試食を配り、半日で事前に準備した計 130 個を販売することができた。
- ・販売を通して瀬川地区の資料・パンフレットを配り、瀬川地区やセガワ応援隊について興味を持ってもらい、買ってくれた人に説明することができた。
- ・来場者の皆さんにしっかりと瀬川地区の魅力について知ってもらえたと思う。
- ・収益をやってみっ会に還元することができた。

■反省・今後に向けて

- ・短時間で売り切れてしまったため、商品を多く作れたら良かった。
- ・そばのスナックが固いという意見があったので、改良したい。
- ・商品を作るときに時間がかかってしまった。効率よく作業ができるように事前の準備をし、時間短縮ができるようにしたい。

3.4. 獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2023～Winter～”における福島県復興支援物産展の開催

本学では夏季6月と冬季12月の年2回、「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”」を開催する。12月4日(月)～9日(土)の1週間で開催された“Earth Week Dokkyo 2023～Winter～”において、「大学生と集落の協働による地域活性化事業」に参加している本学の他の3グループと合同で福島県復興支援物産展を開催し、セガワ応援隊は4日(月)～8日(金)の5日間の昼休みの時間帯を中心的に瀬川地区の農産物や特産品を学内外の来場者に販売した。図表15は合同物産展のポスター、図表16はセガワ応援隊の販売実績である。

図表 14. 福島県復興支援物産展の開催

実施企画名	獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2023～Winter～”における福島県復興支援物産展の開催
開催日	2022年12月4日(月)～12月9日(金) 昼休み、2,3限(11:00～14:30)
開催場所	獨協大学学生センター雄飛ホールの西側、1階入口横
企画概要	次の3つの目的を掲げて Earth Week Dokkyo 2023～Winter～において福島県復興支援物産展を開催し、「大学生と集落の協働による地域活性化事業」の他のグループと合同で出品し、瀬川産の農産物や特産品(そば粉、ハチミツ、キウイ、里芋、ハヤトウリ、ジャンボピーナッツ、サツマイモ、

	<p>自然薯)の販売を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田村市船引町瀬川地区に対する認知度を向上させる。 ・獨協大学セガワ応援隊の認知度も向上させる。 ・田村市船引町瀬川地区の特産物を通し、瀬川地区や本事業に対する興味を持ってもらう。 <p>企画内容は以下の通りである。</p> <p>福島県「大学生と集落の協働による地域活性化事業」に採択されている4つの集落では、過疎化や高齢化が進み、集落の活性化が喫緊の課題となっている。これに対して私たち獨協大学の4グループは、よそ者である外からの客観的な視点、若者である大学生の新しい視点や行動力を活用して集落の活性化に向けて取り組んでいる。このような獨協大学の取り組みを1人でも多くの学生に知ってもらい、学内でこの事業を継承していきたい。また福島県の農産物の安心安全を広く認識してもらいたい。</p> <p>福島県「大学生と集落の協働による地域活性化事業」の活動報告の展示も行いたい。</p>
<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集落の方々のご厚意で素材の美味しい食べ方について用意があったため、それを用いて説明することで来場者の方々が購入しやすくなった。 ・獨協大学の学生や周辺の地域住民の瀬川地区に対する認知度向上に貢献することができた。 ・学生も手に取りやすい価格設定であったため、多くの学生に学生が購入してもらうことができた。 ・物産展の売上を瀬川地区に還元することができた。 ・他の地域活性化プロジェクトチームと意見交換ができた。 ・事前に現地へ行き、現地の方と生産過程や栽培過程を学んだことが功を奏し、調理方法や味を進言しながら販売することができた。
<p>今後の課題・展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はポストイングを行うことができなかったためか、学外の客足が伸びなかった。来年度はポストイングを用いて学外の客足についても意識するべきである。 ・SNSをうまく活用し、イベントの告知をするべきであった。 ・Earth Week Dokkyo 期間だけでなく、雄飛祭など開催日を増やす。 ・定期開催をすることで、商品を販売するだけでなく、活動も知ってもらいたい。また定期開催でリピート購入を促し、瀬川地域推しを出現させる。 ・商品の痛みにより廃棄したものがあったので、販売場所や販売方法を改善していきたい。

図表 15. “Earth Week Dokkyo 2023～Winter～”福島県復興支援物産展のポスター



図表 16 . 福島県復興支援物産展のセガワ応援隊の販売実績

	単価 (円)	12月4日 (個数)	12月5日 (個数)	12月6日 (個数)	12月7日 (個数)	12月8日 (個数)	合計個数
そば粉(300g)	200		1			2	3 (売れ残り 2)
ハチミツ(255cc)	1,000			1	1	4	6
キウイ(3個入り)	200	1	1	2	9	3	16
里芋	100		1	1	1	2	5
ハヤトウリ(3個入り)	100	1	1	1	3	4	10
ジャンボピーナッツ	300	2	3	1	1		7 (廃棄 3)
サツマイモ	100	1	4	1	3		9
自然薯	300～ 900		1(300)	1(300)	2(1500)	2(800)	6
個数合計		5	11	8	20	17	62
合計金額		1,000	2,200	2,300	5,300	6,400	17,200

写真 15. 福島県復興支援物産展の開催風景①



写真 16. 福島県復興支援物産展の開催風景②



3.5. 「大学生と集落の協働による地域活性化事業」活動報告会

2月17日(土)13:00～17:00に、ホテル福島グリーンパレス2階「瑞光の間」にて、「令和5年度大学生と集落の協働による地域活性化事業活動報告会」が開催され、原田奈穂と黒木健登、山上真代の3名で参加した。過疎・中山間地域を中心とした集落において活動する大学生グループにより、1年目の集落実態調査、2年目の集落活性化に向けた実証活動、3年目以降の地域活動の自走に向けた伴走支援等の活動をしてきた計21グループの発表が行われた。

瀬川地区の活動を発表するだけでなく、同じ福島県で活動している他のグループの活動を聞くことができ、自分たちの活動にも参考にしたいと思う活動があり、とても刺激を受けた。

写真 17. 活動報告会の開催風景



4. 次年度の活動計画

次年度もセガワ応援隊は、やってみっ会により申請中である地域創生総合支援事業(サポート事業)に協力していく予定である。以下が「瀬川地区活性化プロジェクト」事業計画の概要である。

図表 17. 「瀬川地区活性化プロジェクト」事業計画の概要

	事業計画	概要
1	地域住民と学生によるワークショップ	地域活性化の具体的な構想を検討する。
2	先行事例の視察研修	遊休施設活用等先行事例を視察研修する。
3	軽トラマルシェの開催	地域住民と学生が協働しイベントを開催する。

4.1. 2022 年度末に廃校となった旧瀬川小学校の利活用

7 月にやってみっ会が計画している遊休施設を利用した実例である「道の駅保田小学校」の見学に同行する。実際に小学校を活用した施設であるこの施設を見学し、瀬川小学校を現実的に活用する方法についての学びを得たいと考えている。またこの施設の見学を踏まえ、地元住民と学生でどのような方法で小学校を利活用することができるかについての具体的な構想を作るためにワークショップを開催する。

4.2. 新そば収穫祭&軽トラマルシェ開催のサポート

例年行っている新そば収穫祭&軽トラマルシェの開催に協力し、会場設営や販売の手伝いをする。このマルシェは現段階では瀬川出張所で地区の商品を販売することにとどまっているが、来年度は、ぜひ旧瀬川小学校の校庭を活用し、商品や客層をより、拡大したものにしたい。

図表 18. 新そば収穫祭&軽トラマルシェ開催のサポート

企画の概要	<ul style="list-style-type: none">・今まで瀬川出張所で開催していた軽トラマルシェを旧瀬川小学校のグラウンドで開催する。・瀬川地区で作られた農産品・特産品を販売し、その商品を通じて瀬川地区を知ってもらう。
期待される効果	<ul style="list-style-type: none">・県内だけでなく、県外からの参加者が増え、地域経済の活性化が期待できる。・瀬川地区の魅力を知ってもらう機会の創出。・外貨を獲得する。・廃校の利活用。

4.3. 学内で開催する福島県復興支援物産展の継続

次年度も引き続き、獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”において福島県復興支援物産展の開催を行っていきたい。これは、瀬川地区で生産されたものを販売することで、大学生や獨協大学の周辺住民に瀬川地区を知ってもらうことを目的に実施している。次年度以降は、広報の方法を改善しつつ、より多くの方々に瀬川地区を知ってもらうきっかけとして活

動を拡大していきたいと考えている。

5. おわりに

獨協大学セガワ応援隊は、2017年度、2018年度、2019年度、2021年度、2022年度と地域との関係を継続してきて、2023年度はこれまでの活動を総括する年となった。「大学生等による地域創生推進事業」から「大学生と集落の協働による地域活性化事業」にわたって採択いただき、実際に現地に学生が足を運ぶことで、過疎地域の生活の実態を知り、地域の暮らしのために何が必要であるのかを真剣に考える貴重な学びの機会をいただいた。

今年度は、新そば収穫祭&軽トラマルシェにおいて来場者にアンケート調査を行い、地域の方々のニーズがわかったので、次年度は廃校の利活用に向け、実際に旧瀬川小学校の校庭を使ったイベントなどの活動を行うことが目標である。次年度のサポート事業でも、これまでの活動から継続して地域コミュニティの活性化をはかりつつ、物産展で販売したエゴマやそばなど、豊かな農産品や伝統芸能のPRを通して、外部への働きかけに力を入れていきたい。SNSを積極的に使い、引き続き、瀬川地区のアピールになる活動を行っていきたい。

今後の活動の主軸は旧瀬川小学校の利活用である。旧瀬川小学校は私たち獨協大学の先輩が、2017年度に最初に瀬川地区に入った際に、瀬川フェスタが開催され、地元の子もたちと保護者の皆さんのイベントに参加させていただき、地元の皆さんのお話を聞かせてもらったという場所である。地元の皆さんとのワークショップを通して、この瀬川小学校を地域の皆さんの活動の場、心の拠り所となるような利活用方法を考え、協働して作り出していきたいと考えている。

謝辞

今年度は、何度もオンライン・ミーティングを開催していただいたり、2度の現地活動の受け入れていただきました。活動にお付き合いいただいた「やってみっ会」会長の新田昭悟様、副会長の三浦隆一様、いつも学生と連携してくださっている佐々木正和様、テラス石森でオンライン・ミーティングをセッティングしていただいている一般社団法人 Switch スタッフで田村市地域おこし協力隊の中山真波様、そして2017年度田村市総務部協働まちづくり課にいた当時から、ずっと私たちの活動の場を整えてくださっている鈴木俊栄様には、本当にお世話になりました。このような活動の機会をいただけることは、私たち学生にとって非常に貴重な経験でありました。学生の提案した活動に真摯に向き合ってください、ありがとうございます。これからも引き続き、よろしく願いいたします。

毎年、福島県地域振興課の担当者の皆様には本当にお世話になりました。福島県地域振興課の皆様ならびに社会システム株式会社の皆様をはじめとし、本事業に関わったすべての方々に対しまして、この場をお借りして御礼を申し上げます。

活動報告会にて「やってみっ会」の皆さんと記念撮影

